

生が新傾向の問題だと思ってしまったかもしれない。今後もこの傾向は続き、暗記だけでは解けない「理解力」と「考える力」を必要とする国家試験になっていくと思われる。

「薬学実践問題」の複合問題や実務問題は、97回より医療現場での実践的な記述、添付文書の記載などが数多く出題され、5年次以降に実施される長期実務実習での成果を問う問題が多かった。

現在、チーム医療の一員として、臨床能力と医療現場での必要な生きた知識や技能を身につけた薬剤師が求められている。6年制では、病院と薬局などの医療現場でそれぞれ11週間（合計22週）におよぶ長期実務実習への参加が義務づけられている。さらに4年次には、学内での実務実習事前学習や長期実務実習に参加するために必要

な知識・技能・態度が備わっているかを確認する共用試験が行われている。

また、充実した臨床教育を実施している大学も多く、問題抽出・解決型の講義であるPBL（Problem-based learning）やTBL（Team Based Learning）の実施、バイタルサインが読める薬剤師能力の開発やフィジカルアセスメントのできる薬剤師を目指す臨床実習を実施している。

第98回薬剤師国家試験は、医療現場での実践的な問題解決能力を身につけた「考える力」を持つ薬剤師を輩出するという、明確な方向性を示し、6年制卒業薬剤師に対する期待を感じさせる試験であったといえる。

これらの結果から、来春の第99回薬剤師国家試験は、「基礎力」「考える力」「問題解決能力」を必要とする問題、医療現場のより実践的な問題が多くな

6年制の国家試験は必須問題（90問）と一般問題（255問）の合計345題の出題になった。試験領域は「物理・化学・生物」「衛生」「薬理」「薬剤」「病態・薬物治療」「法規・制度・倫理」「実務」の7領域である。試験は、領域別に行うのではなく、薬学全領域を出題の対象として、「必須問題」と「一般問題」とに分け、さらに一般問題を「薬学理論問題」と「薬学実践問題」とした3区分で試験を実施した（表3参照）。それぞれの出題区分は下記のような問題内容で出題される。

- 1)「必須問題」は、全領域で出題され、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する問題であり、共用試験と同様の五肢択一の比較的やさしい問題である。
- 2)「薬学理論問題」は、「実務」を除く全領域で出題され、6年間で学んだ薬学理論に基づいた問題である。
- 3)一般問題の薬学実践問題は、「実務」のみの問題と「実務」とそれ以外の領域とを関連させた連問題形式の「複合問題」からなる。「複合問題」は、

6年制薬剤師国家試験で初めて導入された出題形式で、症例や事例を挙げて実務の現場で薬剤師が直面する問題を解釈・解決するための資質を問う問題で、実践力・総合力・基礎力を確認する出題である。

新薬剤師国家試験は2日間で実施され、「必須問題」は1問1分、「一般問題」は1問2.5分で解く時間配分になっている。

また、表3には新国家試験の合格基準を挙げている。合格基準は、全問題への配点の65%以上を基本とする。しかし、「必須問題」は、全問題への配点

「必須問題」「一般問題」の総評と今後の対策

1)「必須問題」は、比較的得点しやすい問題だったが、物理や化学には、高校で勉強した基本的事項を問う問題が数題あった。「病態・薬物治療」は、実際の心電図の波形を読み取る問題など難易度が高いものが見られた。全体的に基礎的事項を問う問題が多く、難易度設定や問題バランスともに適切な問題であったと思われる。

また「必須問題」は、一般問題に比べて比較的得点しやすいため得点源である。「必須問題」の得点率が90%なら、「一般問題」の得点率は56.5%で

表3 新薬剤師国家試験問題区分と合格基準

科目	問題区分 各35%				出題数計
	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15問	45問	30問	15問 (複合問題)	60問
衛生	10問	30問	20問	10問 (複合問題)	40問
薬理	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問 (複合問題)	30問
実務	10問	85問	—	20問 + 65問 (複合問題)	95問
出題数計	90問	255問	105問	150問	345問

※実践問題は、「実務」20問、およびそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる

るなど、98回の傾向とは大きく変わらないと考えられる。また難易度は上昇すると思われる。

の70%以上で、かつ構成する領域の得点がそれぞれ配点の50%以上、「一般問題」は構成する各領域の得点がそれぞれ配点の35%以上とされている。これを「足切り」という。

4年次に行われるC B Tは総点で判断される(60%以上)が、国家試験は各領域ごとに「足切り」が設定されているので、いくら総点が合格基準に達しても「足切り」で不合格になるので注意しなければいけない。

第98回国家試験では、「物理・化学・生物」の足切りで不合格になった受験生が多かった。

合格基準に達することになる。「必須問題」は、80～90%の得点率を目指して勉強してほしい。

2)「薬学理論問題」は、「物理」「生物」のほか「薬剤」「法規・制度・倫理」が97回に比べて難易度が上がっている。また「病態・薬物治療」などに見られるように、新たに試験基準に追加された項目からの新傾向の問題が多く出題されている。既出問題からの再出題ではなく、既出問題の内容をベースにして出題形式を変えたものが多かったため、正解できない受験者がいたと

思われる。さらに実験結果などから考察させる「考える力」を必要とする問題も出題されている。4年次に実施されたC B Tとは違い、記述が長いので読解力が必要である。

また既出問題は、暗記するのではなく、周辺の事項を理解していれば大きな得点源になるので、ぜひ第89回から98回の既出問題は、8月までに1回は解いてほしい。

3)「薬学実践問題」の複合問題は、症例や事象・処方を読み、実務とそれ以外の領域の問いに答える連問である。衛生以外はやや難易度が上がっている。97回に比べて、特に製剤の問題の難易度が高く、より実践的な医療現場での実務の問題（問題解決能力を問う）が増えている。また「生物」と「薬理」など基礎科目を中心に科目の壁を越えた問題が多く、すべての科目を医療・実務につなげる勉強をしなければいけない。また、98回の製剤学では、局方16改正による問題が初めて出題された。

添付文書の内容に関する問題が多かったが、医療現場を意識したためであろう。中枢神経、循環器系、代謝系の実践問題は作成しやすいため、これらの分野の薬物の添付文書にも目を通しておきたい。99回の難易度が上昇することが予想されるので、なるべく早めの対策が必要である。

将来、独立したい薬学生求む。

新成堂は神奈川県を中心に20店舗を展開する調剤薬局です。現在も毎年数店舗ずつ新規出店を行っているため、新成堂で働いていると、新規出店を1から10まで経験する機会が本当に多いです。それは、将来、調剤薬局を自ら開局し、独立を考えているみなさんにとって、薬局のマネジメントスキルを磨くのに最高の環境であると自負しています。「いつか自分の店を持ちたい!」という強い想いを持った意欲的で、向上心が強い新卒業生は是非当社の採用選考にエントリーしてください!



社長の愛船でクルージング 毎年恒例バーベキュー大会



超満員の合同企業説明会 一緒に働きましょう!

より詳しく新成堂を知りたい方はホームページをご覧ください。

新成堂 採用ホームページ
<http://www.sinseido.info/recruit/>

新成堂 採用

検索



株式会社 新成堂
代表取締役社長 新関 一成

SINSEIDO

調剤薬局の新成堂 - 生き生き健やかを100年後まで -

プレゼント!

薬局への就職活動
に絶対役立つ情報冊子

『就職で失敗しない!
良い調剤薬局の選び方』

新成堂採用ホームページ
にてプレゼント中!

気になる中身を一部ご紹介すると...

- 良い調剤薬局と悪い調剤薬局を見極める3つのポイント
 - 良い調剤薬局に共通する特徴はこれだ!
 - 良い調剤薬局の見つけ方・選び方!
- など

株式会社新成堂 <http://www.sinseido.info/recruit/>

〒238-0011 神奈川県横須賀市米が浜通1-17

電話番号: 046-820-1510